

脱炭素目指すフォーラム開催



脱炭素を急務とする企業・自治体がフォーラムに参加した

那覇市の沖縄県市町村自治会館で7月22日、沖縄カーボンニュートラルフォーラム2024(主催・同実行委員会)が開催された。世界的な潮流となっている脱炭素をテーマに講演やパネルディスカッションを行うもので、昨年2月に続いて2回目の開催。会場には自治体や民間企業から多くの参加者が詰めかけたほか、Zoomによるオンラインでの参加者も多数にのびた。越智文雄実行委員長(株式会社あかりみらい代表)は、沖縄の電気料金が補填措置の終了で大きく値上がりすることを踏まえ「環境のみならず経済面からも脱炭素が注目されている。いろんなテーマでの知見を参考にいただければ」とあいさつした。

基調講演では、環境省九州地方環境事務所次長兼統括環境保全企画官の上迫大介氏が「いま脱炭素を進めるべき理由」と題し、地球温暖化の現状と国内外の動き、脱炭素経営の推進といったテーマで講演。続いて行われたパネルディスカッションでは、山川典二那覇市議、りゅうぎん総合研究所の武田智夫常務取締役、堤純一郎琉球大学名誉教授が登場し、それぞれの立場から沖縄が今後どのような取り組みを推進すべきかについて語り合った。

閉会後は脱炭素企業のビジネスプレゼンテーションや参加企業と自治体間のマッチングの時間が設けられ、名刺交換などを行う姿があちこちで見られた。(田実)



基調講演を行う上迫氏



左から越智実行委員長、山川市議、武田常務、堤名誉教授